

栃木県

書道連盟

会報

第27号

栃木県書道連盟
 会 員 数 現在906名
 会 長 鈴木源泉
 〒329-1221
 塩谷郡高根沢町西高谷206
 TEL (028) 676-1153
 編集事務局
 振替口座 00340-3-9017
 〒329-0434
 下野市祇園2-19-410
 印刷 松井ビ・テ・オ・印刷

あいさつ



栃木県書道連盟

会長 鈴木 源泉

創立から61年目を迎えた本県書道連盟は、昨年、数々の記念行事を会員が丸となって成功を収めたことで、ますます充実した感があります。あらためて会員の皆様のご協力に心から感謝を申し上げます。

今年度も、さらなる飛躍のために、一人一人の会員にとって魅力と価値がある事業を目指して取り組んでいるところですが、今年度の特色の一つは、中国浙江省との交流事業です。これは栃木県との友好提携協定書が、締結15周年目にあたるのを機に、明年3月に杭州市西湖美術館にて「栃木県・浙江省書法友好交流展」を開催し、併せて浙江省への研修の旅を実施するものです。さらに、6

月にはその日本展を、平成21年度会員展を兼ねて行うことにもなっています。会員の研鑽と親睦のためにも、必ずやこの事業が有意義なものとなることを信じます。

さて、本連盟の目的である「書道の普及発展を図るとともに、書道を通じて本県文化の振興に寄与すること」は、これまでの役員や会員諸氏のご尽力と、県をはじめとする関係機関からのご支援により着実な成果を積み上げてきました。過日、その功績が高く認められ、栃木県より平成20年度文化振興功労団体表彰を受賞することが出来たことは、私達にとりまして大変大きな栄誉であります。皆様と喜びを分かち合うと共に関係各位に対し、衷心より感謝を申し上げる次第です。

今後とも会員にとって魅力のある連盟作りに努めると共に、連盟の果たしうる役割についても、皆さんと一緒に考えていきたいと考えています。

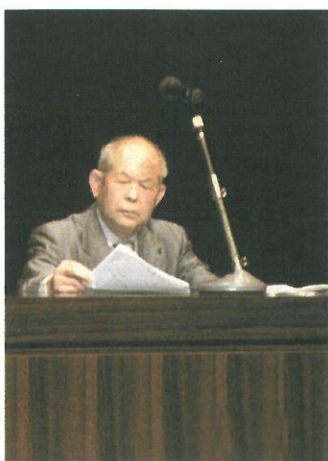
平成20年度
書道連盟通常総会

—開催される—

平成20年度の総会、4月27日(日)、午後1時から2時半まで、栃木県総合文化センターサブホールにて開催。
 進行の磯総務副部長より、出席者、委任状提出者合わせて、議決権行使率が過半数を越え、規約第23条により総会が成立することが報告された。

柿沼副会長の開会のことば、鈴木会長のおあいさつの後、議長に清木賢舟氏(宇都宮)が選出され、議事の審議に入った。また、書記に坂本氏(日光)、日賀野氏(宇都宮)、議事録署名人には小久保氏(上三川)、兼目氏(鹿沼)が選出された。議事について、

第1号議案 平成19年度事業報告及び収支決算報告、監査報告
 第2号議案 平成20年度事業計画案及び収支予算案



第3号議案 その他

それぞれの議案について、大浦事務局長、山田理事(会計)から説明があり、小森氏(宇都宮)からは監査の報告があり、いくつかの質疑応答の後、原案通り承認された。本年度の連盟の、より発展的な活動が大いに期待される。



平成20年度

栃木県書道連盟会員展

— 会員相互の研鑽の場として —

理事 刑部 素心

第47回栃木県書道連盟会員展が4月25日(金)～28日(月)の4日間栃木県総合文化センターにおいて盛大に開催された。出品総数は453点、昨年より26点増となった。

作品は公募展と異なり、意欲的、挑戦的なものが出品されていた。展示は事務の効率化を図るため、初めての試みとしてID番号順に展示した。

第1ギャラリーは本会の顧問・正副会長・参与の先生方の作品24点、ID番号1144～1435番の比較の入会間もない会員の作品34点が展示された。永年本会に貢献され、会をリードされておられる先生方の作品は見てたえがあり圧巻であった。

第3ギャラリーは篆刻19点、ID番号1189～1434番までの会員の作品75点が展示された。篆刻界で活躍されておられる先生方の作品が1つのテーブルに展示された。

表現方法の巧みさ、印影から受ける印象の違い等々比べながら鑑賞さ

せて頂いた。

第4ギャラリーは本会のメイン会場、ID番号10～1188番までの301点が12のブースと6壁面に展示された。各ブース、壁面共に隣り同志の入会時期が同じ年代になるので、各ブースが独特の雰囲気を出している様に感じた。それだけに今回の展示は会員にとっても、正に切磋琢磨の厳しい展示となった。

栃木県書道連盟賞は総会当日の記念講演会講師である綾部光洲先生(早稲田大学講師・文学博士)が選考にあたられ3名の方が受賞された。心から祝意を表します。

○小林香風氏

堂々たる造像記風の正統な書。

○坂本典子氏

かな作品をバランス感覚よくまとめた作品。

○小林桂華氏

実力充分、安心してみられる作品。

最後に今回の会員展に際しましては、搬入・受付・陳列・撤去の各段階において延べ302名の会員の皆様の

ご協力によって「会員による会員の手づくり展」がつつがなく終了できましたことに厚く感謝申し上げます。



参観者で賑わう会場



会場風景



作品に見入る参観者



会場風景

会員書展

小林(桂)・小林(香)・坂本の三氏

— 連盟賞に輝やく —

賞の重さを痛感

小林 桂華

この度、第17回栃木県書道連盟会員展におきまして栄誉ある連盟賞を戴き、誠に有難うございました。身に余る光栄に存じます。これも偏に

役員の諸先生方、師の丸山先生の厳しいご指導が理解され、今回の受賞に結びついたのだと思います。心から感謝申し上げます。

又、審査に当たられました綾部光洲先生に厚く御礼申し上げます。

自分で目指す書がなかなか書けず、苦しんでいる中での受賞でしたので大変嬉しく、同時に、感激と共に賞の重さを痛感しております。これを機に尚一層精進して参りますので更なるご指導を賜りますようお願い申し上げます。

龍門二十品—感動新たに

小林 香風

この度は、思いもかけず由緒ある連盟賞を戴き有り難うございます。

六朝楷書を書き続け、未だ暗中模

索の私に、「古典に返って」と導いて下さった石川善克先生と、審査に当たられた綾部光洲先生、また役員の先生方のお陰と心から感謝申し上げます。

龍門二十品を改めて繙くと、かつて古陽洞で目にした石窟風景と、岩肌に刻まれた鋭く重厚な方筆が、そしてその時の感動が蘇ってきました。懐しさと逸る気持ちがあふれ、なかで書いた作品です。今後共ご指導賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

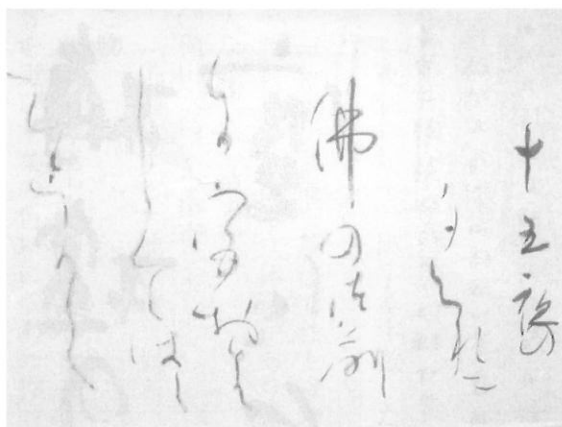
一層の精進を

坂本 典子

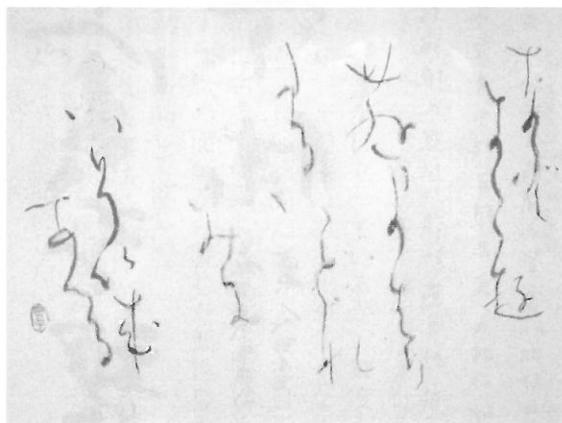
この度は、思いがけず栄ある賞を頂戴致しまして、誠にありがとうございます。本年の源氏物語千年紀という記念すべき年に生きている幸運に恵まれ、又、それを「かな書」として表現出来る幸せを感じながら、原文の美しさに触れ、音を聴き、空気を肌を感じながら制作いたしました。まだまだ未熟な作品ではございま

すが審査して下さいました、綾部光洲先生に心から厚く御礼申し上げます。又、「これからなお一層の精

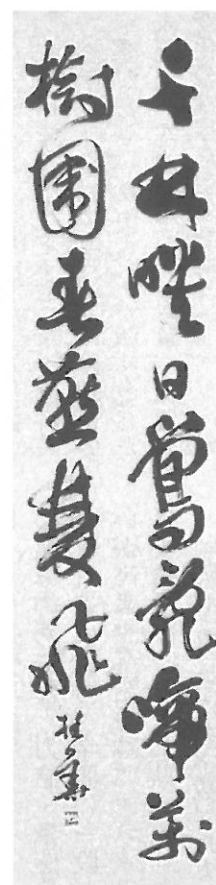
進を」とのお言葉を受け止め、この賞に恥ないよう、精一杯努力致します。参りたいと存じます。



坂本 典子



小林 香風



小林 桂華

平成19年度県芸術祭から

—感動と確かな方向性を—

審査員長 重原 聖鳥

61回展の応募総数は、前年度より14点微増の430点。入選入賞は276点。入選率64.2%（前年68.8%）であった。ジャンル別の内訳。（ ）内は前年の数。

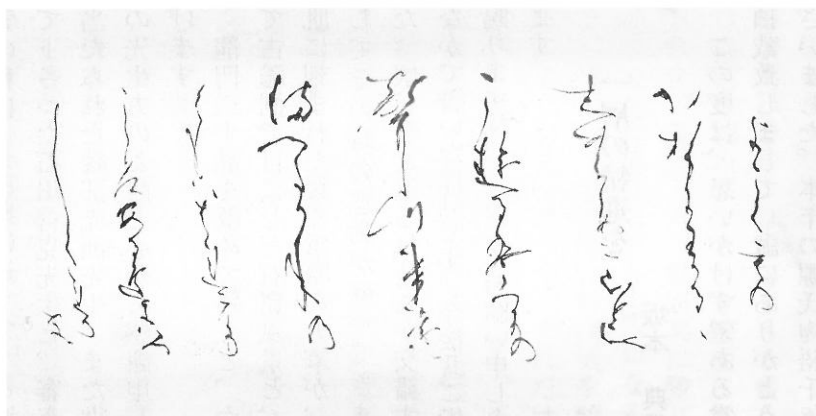
漢字多字数	279点	(279)	64.9%
漢字少字数	32点	(33)	7.4%
近代詩文書	52点	(40)	12.1%
仮名	32点	(35)	7.4%
篆刻	34点	(28)	7.9%
刻字	1点	(1)	0.2%

審査員は、赤澤豊・磯翠茗・五江 測霊水・櫻井敬朔・鈴木源泉・山中 香葉の各氏と重原聖鳥の7名。

搬入・審査・展示・搬出等に、専門委員柿沼翠流・松本宜響、実行委員大浦舟人・齋藤裕一・酒井導子・中原睦美・日賀野琢各氏のご協力があった。

午前は、ジャンル別に入選作を挙手による鑑別。午後は入選作の中からジャンルごとに賞候補を選出。更に上位作を絞り慎重且つ厳正に入賞作を決定した。

入選作にはレベルアップがみられ

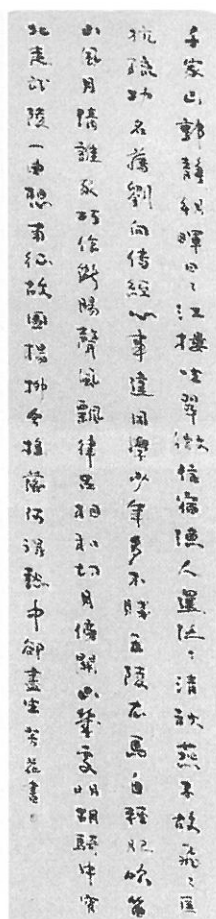


▲腰塚藤翠

た反面、賞候補作は明るく筆法安定、豊かな書線の作を選出したものの、特出した光る作は少なく、審査は難航した。



▲関 奨人



▲鶴見芳花

○芸術祭賞 腰塚藤翠（栃木市）

「秋冬」和歌二首 仮名 よこ物

精錬された大字仮名の技法で、雄勁な線と安定感のある構成は、起承転結の自然な流れが格調高い世界を生んだ快作。

○準芸術祭賞 鶴見芳花（高根沢町）

「杜甫詩」漢字多字数 たて四行

ベテランらしく練達した章法は安定感があり、女史らしい淡々とした表現で、空間が生き、墨量、線質の変化の妙味を生み心地よい。

○準芸術祭賞 関 奨人（宇都宮市）

「森田峽生」の句 近代詩文書 たて二行

黒白のコントラストが美しく、特

に書きだしの「梅檀」に豊かな情感を表現した佳作。欲を申せば、実・碧の運筆は一考を要する。

○芸術祭奨励賞（10点）

○石川子澄（市貝町）

「登清涼台」漢字多字数 たて三行

温みのある作、力感・量感豊かにして気迫に満ち、字間に一段と味わいが高まった安定作。

○大塚清岳（宇都宮市）

「陶潜詩」漢字多字数 たて三行

安定した筆致で充実感が漂い、線に筆力がこもり、心地良いリズム感がある明るい作。

○加茂泰玄（都賀町）

「李益詩」漢字多字数 たて三行
 生氣充滿し、筆力十分の作。自分の呼吸を持った実にリズムミカルな書線が魅力的。

○栗坪夕岐子（宇都宮市）

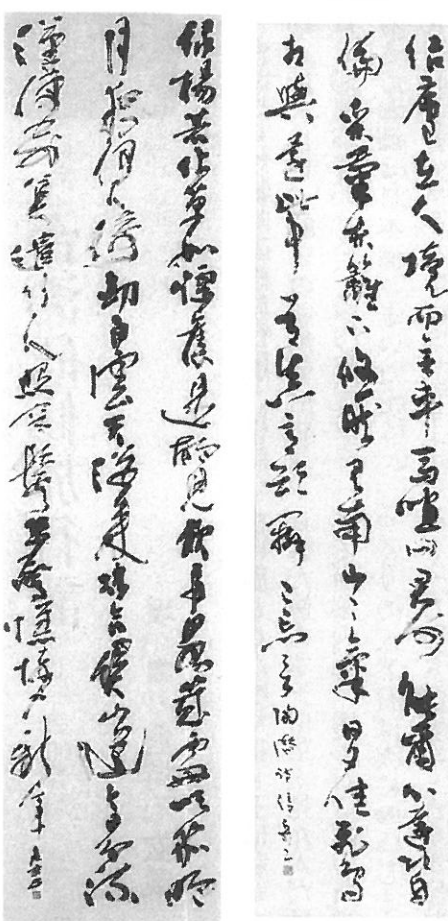
「杜甫詩」閨夜 漢字多字数 たて三行
 若者らしく、正面からのびのびと向かう姿勢に好感がもてる。行間も広く線のキレもある。落款を勉強されたい。

○小森聖子（さくら市）

「邵長衡詩」漢字多字数 たて四行
 字間・行間を程良くとり、単体で淡々とした運筆ながら脈絡があり、気取りのない品格のある作。

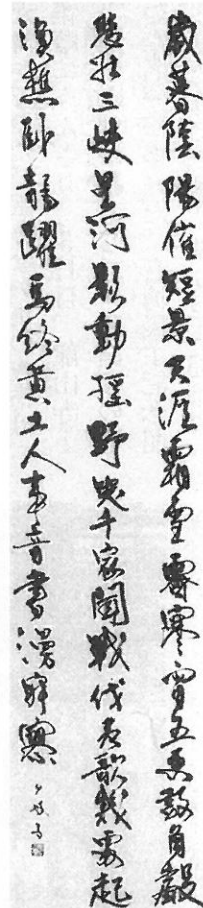
○志賀優子（上三川町）

「湖上」漢字多字数 たて三行
 清澄感に富み、墨色もよく、軽快

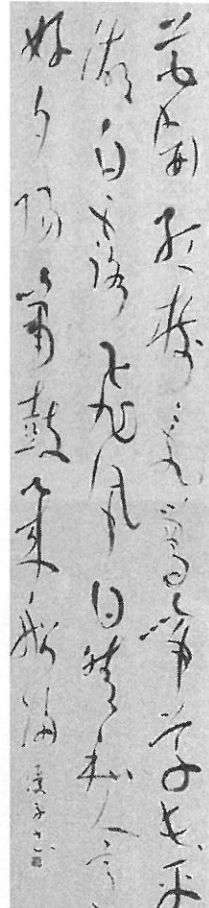


▲加茂泰玄

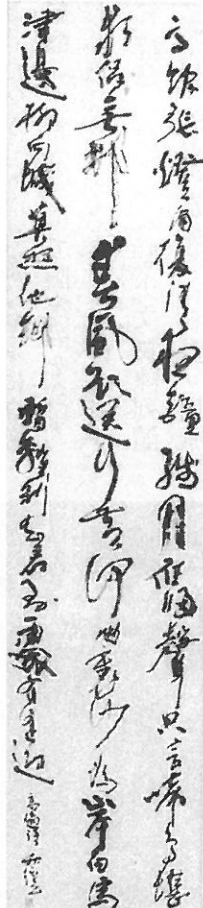
▲大塚清岳



▲栗坪夕岐子



▲志賀優子



▲吉田竹溪

な運筆で爽快な作。もう少し文字を丁寧を書くことを心がけて欲しいとの声があった。

○吉田竹溪（宇都宮市）

「夜別韋司士」漢字多字数 たて三行
 三行書を流麗な筆法で仕上げたベテランらしい作で立体感があり、雄大な表現が心地よい。

○穂山玉星（小山市）

「子の日する」他十首 仮名よこ物
 西本願寺三十六歌仙の中から十一首を選び十葉の色紙に収めた作。古

筆を基調にした行間の疎密・潤渇の変化が巧みで、自然で流麗な作。

○安藤鷹紀（宇都宮市）

「読古人書」篆刻

強靱な線質に現代的感性を湛え、詩意相俟った風雅な作。過度なデフォルメを加えたのは如何なものかとの声あり。

○渡邊春峰（壬生町）

「近作二種」篆刻

字法正しく、難度の高い章法を巧



▲渡邊春峰

みに備え、刀法冴えた明るい作。

近年、漢字多字数作は、行草の三行書が目立っているが、鍊度が高まり、安定感のある作が多くなってきた。良い傾向だが、入賞を目指す方は古典を研鑽し、豊かな感性を養い、師風の面影から脱した個性豊かな作を出品して欲しい。

仮名作品に佳作が見られた反面、少字数は目を見張る作品に乏しかった。次回を期待したい。

60周年
記念

台湾研修旅行記

理事 倉持 玄風

台湾故宮博物院研修旅行は、11月16・17・18日、85名の参加で出発。B G 203便13時25分発、機内食で落ち着き、お酒（日本酒）をいただく。16時15分着。ホテルインペリアまで大渋滞。車窓から見れば緑が多く、下町風でのんびり。2時間後到着。近くのレストランで夕食会。鈴木会長、長谷川副会長、赤澤・柿沼副会長の挨拶。乾杯は松本副会長の流暢な中国語が始まる。各テーブルは後れを取り戻すかのように一気に盛り上がり、最高潮となる。2日目の朝、昨夜の疲れも見せず、8時30分、快晴のなか故宮に向かう。各班で記念写真を撮り、その後入館。収蔵する70万点全てを見るには30年以上かかる。今回は代表作のみの見学。青銅器の毛公鼎……500字に及ぶ長文の銘文で、学術的な価値も高い。陶磁器は北宋時代の逸品がずらり。なかでも無文橢圓水仙盆に汝官窯の数少ない名品。彫刻においては細工の緻密さは神技。傲欖杲核小舟……3 cmの果

核に施された彫り物。玉は翡翠で作られた仿古翠玉白菜……見た人だけが知る白菜の玉。肉形石……豚の角煮そっくりの天然石は実においしいそう。かじった跡まである。書は黃庭堅の松風閣……力感溢れる筆捌きは王道の逸品。褚遂良の細字……趙孟頫と記してあったが、書美とは何かと問われた気がした。昼食は早々に高級レストラン「三希堂」にて限定品を食す。土産袋には懷素の狂草体。買い過ぎに注意。故宮から歴史文物陳列館（考古学の為の別館）に移動。居延の要塞から発掘された漢簡を見学。甲骨文（殷時代）は龍甲色が神秘的。古代文字の放つ気は、神々しくさえ感じられた。夕食後タイペイ101へ、見上げればイナバウアー。展望台まで37秒、101階の屋外は風が吹き、霧が舞っていた。眠らない夜の夜市は、雑踏にうんざり。3日目、龍山寺……龍の彫刻が素晴らしい。吳昌碩の書いた名碑があった。台湾民主記念館……蒋介石総統を偲ぶ巨大建築に、

日本との歴史的深い関わりが見られた。土産は充分。14時41分、ジャンボ機で帰国。雲海は孫悟空の気分。

18時45分成田着。それぞれの想いを胸に帰路につく。



歴史文物陳列館前にて



故宮博物院を背景に

平成19年度

書道連盟実技講習会

開催される――

理事 阿部 祥廬

平成19年度実技講習会が、3月16日(日)ホテルニューイタヤで開催されました。講師には、日展会員で毎日書道会理事や、多くの要職を務める石飛博光先生をお招きいたしました。先生はNHKの「趣味悠々」で講師をされ、全国に広く親しまれております。

実技講習会のテーマは「現代書道・創作のコツ」でした。会場の設営も連盟スタッフを始め、松島堂の応援を得て、実演スペースや、380席の用意も準備完了、開講15分前には参加者で埋め尽されました。石飛先生のお姿が見えて、10時に実技講習が始まりました。山中香葉研修部長の司会、鈴木源泉会長の挨拶に始まり、重原聖鳥常任顧問による講師紹介がありました。

そして石飛先生のご挨拶があり、先ず「書は楽しんでやりましょう」の言葉で始まりました。先生のユニ

ークな私生活のひとつコマなども含めて話され、会場の皆様への心配りで、リラックスしながら、先生のお話しが進みました。先生の師は、金子鷗亭先生ですが、「師匠の真似だけでなく、古典をきちんと学んで、自分らしさを出す事を心掛けなさい」という師の言葉を大切にして精進して来たという事です。

さていよいよ、待ち望んだ先生の実技を拝見できる期待感が高まる中、石飛先生の書法公開・一作一作ごとに、細かな解説が入る。余白の生かし方については、特に力を入れて説明されました。具体的な創作例を多く書かれ、文字の大小の配置から入り、筆の性質を読み取って、可能な限りの創作表現を見せて頂きました。創作という点では、石飛先生の、確固たる信念と自信の様が会場全体に広がり、参加者は「息を呑む」

感覚を感じ取った事と思えました。こうして有意義な時間が進み、午前中の講演時間もあつと言う間に終了しました。午後の部は一時から開始されました。

自由に伸びやかに、無限の楽しみを筆墨に集約している」と感じたのは小生だけではなかったと思います。先生の言葉の中で、特に印象に残っ

た。午前中、揮毫された作が、全てボードに掲示されました。最初は添削タイムという事で、添削希望者の多くが、先生からの適切なアドバイスに感銘を受けておりました。石飛先生の書法が、「精密な構成を基としながらも、宇宙感を持って、



模範揮毫に熱の入る石飛先生

たのは、「音楽的に、リズムカルに筆を運ぶことと、作品にする言葉の選定の大切さ」でした。

参加者の心を掴みながら、解り易く創作の要点を示して下さいました。

実技講習会でも、類をみない受講者の数を前にして、そのエネルギーを自らのパワーに取り込んでいくように感じました。手順なども細かく教えて頂きました。「先ず作品の付加価値を高める方法として、面白さも含んだ素晴らしい言葉を選定する事、これも一点だけにしないで複数作り、最終的には、2点か、3点にしぼる。更に、墨、筆、紙が一番似合う調子を何度も繰り返し書いてみる。そして心に描く理想の表現に近い1点に決定する」「現代書道の創作の楽しさは無限の可能性を秘めている」と嬉しそうに話をされました。

終り間近く、先生は「こうして今日、多くの人達と出会い、交流を持つことが一番楽しく、嬉しい。書を通じて響き合える生活を送れる私は、最高の人生です」と語られました。石飛先生の個展を東京で拝見した事がありますが、臨書の確かさに

加えて、時代の流れや変化を先取りされるセンスの素晴らしさ、モダンで華やかな作品は強く印象に残っております。特に若い門下生が大変多いと聞きました。石飛先生のお人柄の親しみやすさと思ひ遣りの精神、誰にも優しいお姿を感じました。会場の満員の皆様から盛大な拍手を受けて、実技講習会が終了いたしました。赤澤副会長から、先生に感謝の辞があり、石飛先生も満面の笑みで

応えておられました。最後に、山中研修部長から「本日の講義はNHK番組『趣味悠々』の放映内容に準じた形で、わかり易くということでお願ひしましたが、本当に素晴らしき実技講習会になりました。厚くお礼申し上げます」と述べて閉会となりました。私も又、多くの感銘を受けました。石飛ファンが尚一層増えたことだろうと思いつつ帰路に着きました。

した。

講演は、当日来場者に配布された「空海の書の驚くべき背景」―研究の最前線から―を要約した第1部空海の書 壮年期まで、第2部空海の書 壮年期以降、第3部上杉謙信と栃木と空海、の3部構成に纏められた資料のほか、空海の書・書法研究に関わる図版編が添付された資料をもとに、空海の書への思いや書法の再発見について熱く語られ、1時間30分の予定時間が瞬く間に過ぎてしまいました。

先ず、第1部での空海の出家宣言と聾瞽指歸(ろうこしいき)では、空海は、24歳のとき大学を中退、その出家宣言書が「聾瞽指歸」であり、この書が日本の書道の水準が中国の水準に並んだ瞬間であると力説されました。その後、空海の入唐、そして帰国後の明暗、入京後の空海と書について時系列的にわかりやすくご説明を戴きました。

「風信帖」では、風雲信書↓風信雲書と熟語を互い違いに入れ替える互文としていくことの効果や、3通目の忽恵帖は仮名書道の先駆の書であり、弘法筆を選ばずの真実ではな

講演会

「空海の書の驚くべき背景」

―空海研究の最前線から―

講師 早稲田大学講師・文学博士

綾部 光州先生をお迎えして

理事 郷間 大悠

4月27日(日)、栃木県総合文化センターサブホールにおいて、平成20年度県書道連盟主催の講演会が開かれ、早稲田大学講師・文学博士の綾部光州先生を講師にお招きし、「空海の書の驚くべき背景」と題す

る講演を戴きました。空海の書・書法についての学術的な研究をされている先生は、本県出身でもあり、ファンも多く、講演を聴こうと、会員、高・大学生等一般の方の来場者も集まり、会場はほぼ満席の中開催されま

いかと指摘されました。

また、空海と最澄の書との識別においては、同字比較例等をもとに解説をされ、現時点における調査研究の過程では、空海の書が5点、最澄の書7点が確認されている段階であり、誰の書かの判定についてはまだ時間がかかることとであり、日本書史研究の困難性についても披露されました。

第2部においては、先生の「空海の書法研究」の本論の部分として耳を傾けました。「三十帖策子」や「風信帖」に見られる梵字書法の影響、「益田池碑銘」では字の対象に入っていく独特の精神性についての説明がありました。

特に、先生の私見では、「破体心経」を梵字の「切り継ぎ」の書法を用いて「一文字や一画の中に、様々な書体を自覚的に混合・融合させる書法」と解釈し、この稀有書法を「合体書法」と名付けたものであるとし、空海書法の再発見をしたところであると話された瞬間、会場からアーンと驚きの声が響きました。

第3部においては、上杉謙信と栃木と空海との関わりについての話が

ありました。最後に、「空海や謙信たちが思いを馳せた栃木県の豊かな風土・伝統を誇りに思い、また、それを糧として研鑽していきたい。栃木の皆様の発展を心よりお祈りする」として講演を終了されました。

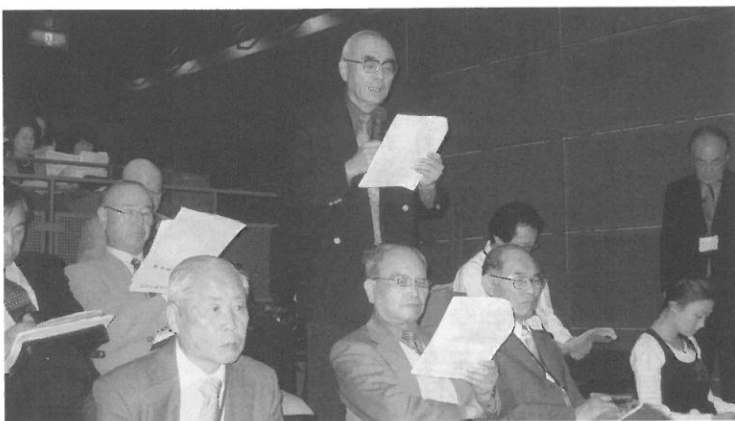
講演後、受講者は、先生の郷土への思いを馳せながらの話に、多くの方が感銘を受めました。講師・受講者が一体となり、空海を追いかけて熱気ムンムン、空海の迫力・真髄についての素晴らしい講演だった。今まで



「合体書法」というのはですね…熱弁を奮う綾部先生

になく盛り上がり理解が深まった。再度県にきていただいて拝聴できれば嬉しい。熱心に聴講され皆さん感銘をうけたのでは、などの声が寄せられ評価の高い講演会だったことが伺われます。

また、会員展の連盟賞につきましては、綾部先生の単独審査で行われ、受賞した3点について、正統派の堂々とした作品、バランス感覚の良い作品、足腰のしっかりとした書を選考したとの短評がありました。



講演後の質疑応答

講演後に、ホテル丸治において、講師を囲んでの懇親の宴が終始和気藹々の中開かれました。綾部先生は、「故郷での話ができる幸せを感じている。これも一重に、今回の企画をお世話下さった方々や熱心にご聴講下さった皆様のお陰である」と話され、先生の謙虚・真摯さが感じられた一日でした。綾部先生、有難うございました。



みんなでにっこり…懇親会後に先生を囲んで

理事 小久保汗顔

来賓の知事・文化協会・新聞社等の祝辞を賜り、本連盟役員のスピーチがあつて、鏡開き・開宴の運びとなつた。

会員一同時を忘れ、近年になく和気藹々の中の受賞祝賀会となつた。

冒頭に、会長から一去る6月15日県民の日に、昨年、本連盟創立60周年記念展を終え、本年の新たな第1年次に、栃木県より文化振興功労団体として表彰を受けたことは誠に意義深いものがあります」と挨拶があり、「貴連盟は多年にわたり地域文化の向上及び書道の普及発展に努められましたその功績は誠に大でありましたのでここに表彰します」と称えられた額を前に、会員の皆様共々誠に喜ばしい限りであります、と紹介がなされた。



▲県文化振興功労団体表彰祝賀会（於：ホテルニューイタヤ）

A black and white photograph of a man in a dark suit, white shirt, and striped tie. He is looking down at a large, white sheet of paper he is holding with both hands. The paper is slightly curved, and the background is dark and out of focus.

また日展においては平成6年の初入選以来、入選11回を数え、平成18年には9千5百点余から選ばれて本県初の「特選」を受賞する。

このように謙慎書道展の「西川賞」と日展「特選」の2つを受賞したのは、本県書道界において氏が初めてである。

受賞後、日賀野氏は謝辞をのべ、次のように結んだ。「本来『書』かれるべき文字が『打』たれる昨今、都内の大学において、書を志す学生たちに手書き文字の

日賀野 琢先生

「とちぎ文化」109号より部分転載

書き文字の
重要性を伝
え、芸術と
しての書の
可能性を教
えることが
現在の私の

中心的な仕事となっていますが、もう一方の軸足を地元栃木において、偉大な先生方の築いた伝統を受けつぎ、なお一層の研鑽に努め、精進する決意です」。

左に掲げた作品は当日特別展示された日展特選受賞の「寂蓮詩」。



浙江省との 交流展

西湖美術館で開催

副会長 松本 宜馨

栃木県書道連盟は昭和22年に創立され、昨年は創立記念式典を盛大に挙行することができました。

本会は書を愛好する者の親睦と研修を大きな柱としています。研修面では毎年実技講習会を開いて資質の向上に努めています。また書の源流

である中国との交流もその1つとして行われています。昨年は台北故宫博物院・中央研究院を訪れました。姉妹県の浙江省に目を向ければ平成

3年には浙江省芸術祭に参加、平成4年には余正・呉瑩両氏を西泠印社から招聘、6年には訪中団を結成して浙江省博物館・西泠印社・蘭亭等での書法交流を行いました。一昨年は浙江省書画友好訪問団が来県し互いに研修の実をあげています。

このたび、これらの実績を踏まえ浙江省書法家協会との共催で、書法展を開催する運びとなりました。世に「上有天堂 下有蘇杭」と言われ

栃木県・浙江省友好結好15周年記念
浙江省・栃木県書法友好交流展

永和九年歲在癸卯暮春之初

本展は、栃木県・浙江省友好結好15周年記念として、平成20年3月26日（木）～30日（月）まで、西湖美術館で開催される。本展は、浙江省書法家協会と栃木県書道連盟の共同主催による。本展は、浙江省書法家協会と栃木県書道連盟の共同主催による。本展は、浙江省書法家協会と栃木県書道連盟の共同主催による。

会期：2009年3月26日（木）～30日（月） 共5日 開幕式
会場：浙江省杭州西湖美術館
（栃木県の送付作品200点、浙江省の送付作品400点を展示します。）
作品規格：横軸横書（縦135cm×横35cm）または70cm×70cm
（縦一軸横書の作品も募集いたします。（要員に逐次要請のあります。））
日本展 会場：栃木県
会期：2009年3月26日（木）～30日（月）
会場：栃木県立文化センターギャラリー
（平成20年3月26日（木）～30日（月）までの5日間、本展の作品を展示します。）

★栃木県・浙江省書法友好交流団員募集★ （浙江省への研修の旅）

今回の書法友好交流にあわせ、浙江省への研修の旅を実施します。どなたでも参加できますのでご近所

- お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。
- 【1】期日 平成21年3月26日（木）～28日（土）3泊4日（予定）
【2】旅行先 中国浙江省杭州市内、西湖美術館、浙江省博物館、西泠印社など、諸市内、電車など
【3】費用・スケジュール・申込方法などについては要項をご覧ください。

る風光明媚な地での書展開催実現は、連盟のみならず栃木県にとっても画期的なことです。会期は、平成21年3月26日（木）～3月30日（月）です。会員諸氏の御協力を宜しくお願い申し上げます。

四川省大地震

見舞金のご報告

総務部理事 澤田 寛

5月12日、世界中を震撼させた中国四川省大地震は、村全体が土砂に呑みこまれたり、倒壊した校舎に数百人の子供達が生き埋めになるなど、被災者の数は、死者約7万人、被災者は累計で4千6百万人となったといわれます。私たちはその惨状を目にして胸の痛むのを禁じ得ません。

折しも、来年には浙江省との書法友好交流を実現すべく計画の準備を進めていたところでもあり、隣人の大きな悲しみに微力ながらも見舞金を送ることで私たちの気持ちを示したいと考えました。早速、5月25日に開かれた役員会において、中国四川省大地震の被災者に対し、すべての会員に呼びかけて連盟から見舞金を送ることを決定しました。このことは、5月30日付下野新聞に掲載されました。

新聞に掲載された直後から、一般の方を含めて多数問い合わせがあり、6月末の段階で振り込まれた見舞金は60万円を越えるまでになりました。そこで、7月7日、鈴木会長と事務局長が宇都宮市若草の「とちぎ福祉プラザ」内「日本赤十字社栃木県支部」を訪れ、同事務局長の小松氏に目録（振込済票）を手渡しました。なお、その後も振込みが続いており、8月24日現在で、さらに20万円に達しています。この見舞金は、後日改めて、中国の関係機関へ送る予定でおります。（年末まで受付）

会員の皆様のご協力に対し、心から感謝を申し上げます。



見舞金の目録を手渡し鈴木会長

グループ'005'Wの会

—書 展—

「グループ'005'Wの会（代表・村田幽香）」は、2005年、女性（Women）の会として発足したグループです。

栃木を代表する女流書家20人が、女性の感性を持ち寄り、繊細優美に、時には大胆に、現代に生きる書を発表しています。

は、会員同士、大きな刺激となりました。これも、会派を越えた集まりだからこそ得られる醍醐味であり、また互いに楽しめるものと思っております。

私達会員の楽しみの一つに、毎年テーマを設け、それぞれの創造性を駆使した創作作品があります。昨年10月5日（金）～8日（月）県総合文化センターで開催された第3回書展では、料紙サイズの額を揃え、内容を自由としました。20人の創作力は無限大であり、その趣向の異なり

加えて、下野奨学会基金寄付も、今年で4回目を数えています。

（記・事務局 中原 睦美）



会員お揃いで



会場風景

地区だより

第1回

下野市書道連盟展

参与 秋山 無涯

去る6月12日から15日まで、下野市のグリムの館で初の連盟展が開催されました。展示数70点、嬉しいやら辱かしいやら、顔を赤らめる初々しい会員もあり、又、県書道連盟の先生方にもご高覧を賜り、お陰様で

第1回 県南書人展

理事 倉持 玄風

永い間の念願だった県南地区5市6町（小山・足利・佐野・栃木・下野市・壬生・野木・大平・藤岡・岩舟・都賀町）の代表作家による書展を3月7日～10日、小山道の駅思川の小山評定館で開催した。

県南書家の交流を深め、更に相互の技術向上と各地域の書の高揚と活性化を図る。第1回展は各地域からの72名による2×8尺を中心とした力作。懇親会には鈴木会長、松本副

400名を越える入場者で盛況の中に終了することが出来ました。今後皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。尚、栃木県書道連盟の益々のご発展をご祈念申し上げます。



会長、大久保小山市長のご臨席をいただき、出品者と交流を深めた。第2回展は足利市立美術館にて2月開催が決定している。



会場風景

第25回読売書法展俊英賞・特選
第60回毎日書道展毎日賞

活躍する連盟会員

総務部副部長 磯 翠茗

第25回読売書法展の役員(幹事)を対象に贈られる読売俊英賞に、漢字部門で、本連盟の早乙女晃楓さん(総務部理事・日光市花石町)が、調和体部門で人見翠苑さん(参与・日光市栄町)がそれぞれ輝いた。本県から2人だけの快挙であった。会友・公募の最高賞に当たる特選には本連盟の会員4人が輝いた。

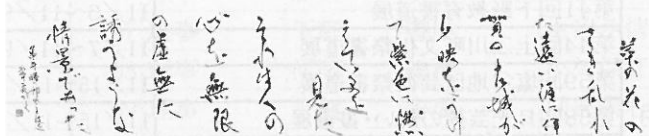
俊英賞の早乙女さんの作品は、梁田蛭岩の「塩谷晩帰口号」を2×8尺に淡墨を駆使した草書3行で纏めた作品で、高く吊り上げた筆が奏でる強靱な細線は切れ味爽やかに、日本的抒情美の魅力を遺憾なく發揮して美しい。人見さんの作品は、亀井勝一郎の『大和古寺風物誌』から「金堂の春」を抄録した作品で、仮名系の調和体で読みやすく書かれている。

特選では、漢字部門の三本木英雲さん(大田原市山の手)の李白詩「至陵陽山登天柱石酬韓侍御見招隱黃山」は、2×8尺に行草体の5行に及ぶ多字数作品で、「書は見るもの・絵は読むもの」という視点を感じさせるメリハリのある作品で、動勢豊かに気韻溢れ、強いインパクトとメッセージ性が伝わってくる。三本木さんは2年連続の特選受賞。広岡道外さん(宇都宮市中岡本町)の作品は王

維詩を、2×8尺に行書体で書き上げた作品で、平板になりがちな多字数作品を小さく書いてなお大きく見せる工夫がなされており、寄せては返す潮のような旋律の鼓動が心地よい。平石彰男さん(さくら市氏家)は2×8尺に施閨章の「上接箭峰至隱屏絶頂」を三行で纏め、春秋戦国期の楚簡に見られる篆書をテーマに取り組んだ作品で、雄渾な筆致に込められた高い品格が感じられ、凛然たる佇まいの美しさは群を抜いて見事である。仮名部門の松濤隆子さんの西行法師の「花薄」を書いた作品は、自然界にありのままにある花の美をテーマに、中心部に芯を立て、両サイドは控えめに流れを柔らかに抑え、微明の情緒が儚く美しい。「アエカ」の光芒が感じられる。

一方、第60回毎日書道展では、会友・公募部門の最高賞に当たる毎日賞に本連盟会員4人が輝いた。漢字Ⅱ類では、関獎人さん(宇都宮市千波)は2×6尺に「其帰一也」を隷書で渾厚朴茂に書き上げ、「二」を極度に吊り上げて上部に布置し、大胆な造形が、作品に豊かな空間の拡がりを齎した。関さんは、昨年に引き続き連続の毎日賞の受賞で、来年より役員に昇格する。穂山玉星さん(小山市

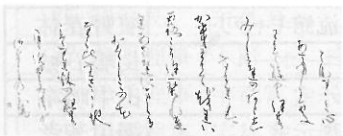
▲人見翠苑



乙女

の仮名Ⅱ類の作品は、3×6尺縦に百人一首から持統天皇歌・行尊歌の2首を書き合わせた作品で、草仮名に湛えられた流線型の美、山桜の強調が空間に放つ凛然たる空気の鮮やかさに魅了される。渡邊司航さん(鹿沼市見野)の近代詩文書作品は、岡本綺堂の「修禪寺物語」から、夜叉王が面作りに魂を打ち込む様を語った一節を書いた作品で、徹底的な経意に共感する姿が重ね合わされた一筆入魂の作。秋山浩志さん(日光市山内)の刻字作品は、150×60㎝の板に劉混「扶風歌」からその一節178字を篆書で彫り上げ、金箔を貼った作品で、労作である。

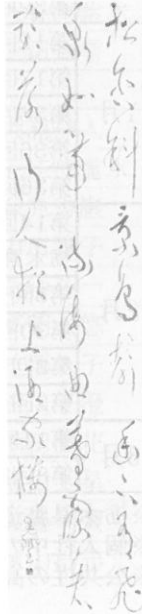
▲松濤隆子



▲関 獎人



▲早乙女晃楓



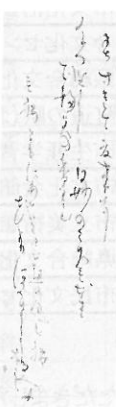
▲三本木英雲



▲広岡道外



▲平石彰男



▲穂山玉星



▲渡邊司航



▲秋山浩志

月別各地区催し物案内

開催月	名称	期日	会場	責任者
4月	第4回栃木かな書道展	4/4～4/7	栃木市文化会館展示室	腰塚藤翠
5月	第5回茂木町書道連盟総会・研修会	5/18	茂木町町民センター	矢野弓翠
	第7回栃木県生涯学習書道展	5/2～5/5	栃木県総合文化センター	石井碧天
6月	第9回下都賀の書展	6/5～6/8	栃木市文化会館	田中暁亭
	栃木県青年書作家協会総会・講演会 「筆の話・筆制作体験学習」	6/15	宇都宮市総合コミュニティセンター	塚原秀巖
	第13回市貝町書道連盟総会・実技研修会	6/22	市貝町立図書館	刑部素心
	第31回高根沢町書道連盟展	6/28～7/1	栃木県総合文化センター	鈴木源泉
7月	矢板市文化協会夏休み体験学習書道講座 下野教育書道展出品作品制作研修会	7/27	矢板市公民館大研修室	柿沼翠流
8月	第16回書友会同人展	8/29～8/31	栃木市文化会館展示室	田中暁亭
	第34回栃木県小中学校教職員書道展	8/20～8/22	栃木県総合文化センター	黒須親章
	茂木町書道連盟夏期研修会(かなの基本)	8/24	茂木町町民センター	矢野弓翠
	第4回グループ'005・Wの会「書展」	8/30～9/2	栃木県総合文化センター第1	村田幽香
	公募第39回東日本書展	8/30～9/2	県総合文化センター第3・4ABC	諏訪公道
9月	第36回日本の書展・第33回下野の書展	9/3～9/8	FKDショッピングモール宇都宮インターパーク店	下野新聞社
	第16回栃木県刻字展	9/9～9/14	県総合文化センター第3	高際翠邦
	第2回日光市書道連盟展	9/17～9/20	日光杉並木ギャラリー	早乙女晃楓
10月	第11回栃木県小中学生選抜書道展	10/10～10/13	宇都宮市文化会館展示室	塚原秀巖
	書道界の二大巨匠「豊道春海・手島右卿」展	10/17～10/22	大田原市与一伝承館	金丸昌弘
	芳賀地区書道連盟設立総会並びに研修会	10/25	芳賀町中央公民館	刑部素心
	下野市市民芸術祭書道展	10/25～10/26	コミュニティセンター友愛館	中川賢郷
	第61回栃木県芸術祭美術展(書道展)	10/25～11/4	栃木県総合文化センター	県文化協会
	第55回小山市文化祭書道展	10/29～11/2	小山市文化センター	倉持玄風
11月	第41回下野教育書道展	11/6～11/9	壬生町中央公民館	下野新聞社
	第44回上三川町文化祭書道展	11/7～11/9	上三川町体育センター展示の広場	古谷昇雲
	第59回塩谷地区芸術祭書道展	11/15～11/16	さくら市喜連川公民館	鈴木源泉
	第58回日光芸術の集い・書道展	11/15～11/16	日光総合会館	坂 翠石
	第30回記念鹿沼市文化祭書道展	11/21～11/23	鹿沼市文化活動交流館ギャラリー	植野春林
	第6回大田原市書道連盟展	11/22～11/24	那須野が原ハーモニーホール	長嶋石城
	第29回栃木市文化祭書道展	11/28～11/30	栃木市文化会館展示室	田中暁亭
12月	第10回栃木県学校教育書写書道作品展	12/3～12/4	宇都宮市文化会館展示室	綱川芳孝
	第32回栃木県高等学校書道展	12/12～12/15	栃木県総合文化センター第2・3	栃高文連
1月	第12回市貝町児童生徒書初席書大会	1/6	市貝町中央公民館	刑部素心
	第17回全国書道展・全国教育書道展	1/11～1/12	宇都宮市文化会館展示室	吉田景堂
	第36回清明書展	1/16～1/18	県総合文化センター第4・ABC	中野永峰
	第36回栃木県高等学校書道教員展	1/16～1/18	栃木県総合文化センター第3	栃高教研
	第36回鹿沼市書初展	1/21～1/25	鹿沼市文化活動交流館	兼目悠久
2月	第14回栃木の書壇50人展	2/1～2/6	県総合文化センター第4・ABC	下野新聞社
	栃木県小中高校生書初中央展	2/7～2/9	栃木県総合文化センター第4・ABC	関東書籍
	第5回茂木町書道連盟展	2/18～3/1	茂木町道の駅(おもてなし情報館)	矢野弓翠
	第30回小山市チャリティー美術作品展	2/19～2/22	小山市生涯学習センター	市文化協会
	第3回矢板市塩谷町合同書道展	2/21～2/22	矢板市文化会館小ホール	柿沼翠流
	第2回県南書人展	2/20～2/22	足利市立美術館	関口鶴情
3月	第11回栃木県青年書作家協会会員展	3/14～3/16	栃木県総合文化センター第4	塚原秀巖
	第8回鹿沼市書道連盟展	3/20～3/22	鹿沼市民文化センター	兼目悠久

※栃木県書道連盟の主催する事業は除いてあります。

※個人社中の事業は、割愛させていただきました。

※公共性の高い事業については、連盟外郭団体の事業も掲載させていただきました。

平成20年度役員等一覧

(顧問・参与、事務局員を含む)

No.	役職	地区	専門部	姓 号	No.	役職	地区	専門部	姓 号
1	名誉顧問	宇都宮		中井史朗	45	理事	宇都宮	事務局会計	山田雅子
2	常任顧問	芳賀		重原聖鳥	46	理事	宇都宮	総務	吉田竹溪
3	常任顧問	宇都宮		中野永峰	47	理事	足利	総務	阿部祥廬
4	顧問	大田原		酒井真沙	48	理事	足利	研修	関口鶴情
5	顧問	宇都宮		久津美碧洋	49	理事	栃木	書展	田中暁亭
6	参与	塩谷		菅又蘆舟	50	理事	栃木	書展	前田珠芳
7	参与	日光		石川六涛	51	理事	佐野	総務	森田桂石
8	参与	佐野		川合峨山	52	理事	佐野	研修	柳田昂雲
9	参与	宇都宮		生田目史雲	53	理事	鹿沼	総務	兼目悠久
10	参与	宇都宮		高梨峰鶴	54	理事	鹿沼	事務局次長	塚原秀巖
11	参与	那須塩原		津久井悠山	55	理事	日光	総務	坂本芳久
12	参与	下都賀		高際翠邦	56	理事	日光	総務	早乙女晃楓
13	参与	日光		人見翠苑	57	理事	小山	研修	倉持玄風
14	参与	宇都宮		大塚清岳	58	理事	小山	書展	藤澤翠待
15	参与	下野		秋山無涯	59	理事	真岡	書展	細川紫雲
16	参与	宇都宮		荒井雅子	60	理事	大田原	書展	酒井導子
17	参与	小山		上野鶴陽	61	理事	大田原	書展	長嶋石城
18	参与	宇都宮		斎藤美与子	62	理事	矢板	総務	磯 翠茗
19	参与	下都賀		石川善克	63	理事	那須塩原	書展	高橋金舟
20	参与	小山		篠原珠篁	64	理事	那須塩原	書展	室井池水
21	参与	栃木		腰塚藤翠	65	理事	さくら	書展	小森聖子
22	参与	佐野		勅使川原素山	66	理事	那南	研修	斎藤裕一
23	会長	塩谷		鈴木源泉	67	理事	下野	書展	生沼冬情
24	副会長	宇都宮		赤澤 豊	68	理事	河南	総務	小久保汗顔
25	副会長	矢板		柿沼翠流	69	理事	芳賀	書展	刑部素心
26	副会長	宇都宮		松本宜響	70	理事	下都賀	書展	小林桂華
27	常任理事	下野	事務局長	大浦舟人	71	理事	下都賀	書展	竹澤久子
28	常任理事	宇都宮	総務担当	木曾梅邦	72	理事	塩谷	事務局次長	五江渕靈水
29	常任理事	宇都宮	研修担当	癸生川天遊	73	理事	塩谷	書展	斎藤一吼
30	常任理事	栃木	書展部長	丸山暁鶴	74	監事	宇都宮		大谷津紫水
31	常任理事	大田原	書展担当	村田幽香	75	監事	宇都宮		下司香雪
32	常任理事	小山	研修部長	山中香葉	事務局				
33	常任理事	宇都宮	総務部長	吉田景堂	1	事務局長	下野		大浦舟人
34	理事	宇都宮	研修	安藤磨紀	2	事務局次長	塩谷		五江渕靈水
35	理事	宇都宮	研修	大類天鶴	3	事務局次長	鹿沼		塚原秀巖
36	理事	宇都宮	研修	郷間大悠	4	事務局会計	宇都宮		山田雅子
37	理事	宇都宮	研修	桜井敬朔	5	事務局員	那南		斎藤裕一
38	理事	宇都宮	総務	澤田 寛	6	事務局員	宇都宮		郷間大悠
39	理事	宇都宮	書展	篠崎無関	7	事務局員	下都賀		竹澤久子
40	理事	宇都宮	書展	中原睦美	8	事務局員	芳賀		石川子澄
41	理事	宇都宮	書展	中山志峰	9	事務局員	大田原		横田蘭花
42	理事	宇都宮	総務	日賀野 琢	10	事務局員	小山		穂山玉星
43	理事	宇都宮	書展	村松太子	11	事務局員	鹿沼		渡邊司寶
44	理事	宇都宮	書展	谷古宇栖洞	12	事務局員	日光		秋山浩志

平成19年度 事業報告

5	4
27	15
20 23	16
21	15
会員名簿の更新 市町村合併による市町村呼称変更。ID検索の新設。A5判、106頁、1300部 創立60周年記念誌発行 内容 記念会員展の「図録」・「10年間のあゆみ」 仕様 A4、1240頁 発行部数 1300冊 ・経費 2百万円 創立60周年記念会員展 会場 栃木県総合文化センター第2・3・4G 搬入 19年4月19日(木) 出品点数 507点 出品料 2千円 「創立60周年記念連盟賞」 5点 赤澤寧生、磯翠茗、五江洲霊水、日賀野琢、山田雅子 (対象者…常任理事以上を除くすべての会員) 審査員 常任顧問、正副会長、常任理事(会長が審査委員長) 審査日・方法 19日、投票、審査進行 事務局長 19年度総会 会場 栃木県総合文化センターサブホール 時間 13時～14時半 進行 磯翠茗 議長 高橋瑞峰(壬生町) 書記 兼目悠久(鹿沼市)、 早乙女晃楓(日光市) 議事録署名人 関口鶴情(足利市)、 森田桂石(佐野市) 会員数 932名 総会出席者 117名、委任状提出 520名、計637名 議事(1) 平成18年度事業報告及び収支決算報告 (監査報告) (2) 平成19年度事業計画及び収支予算 〔記念式典〕 会場 宇都宮東武ホテルグランデ6F 時間17時～ 会費 7千円 招待者 栃木県知事、県教育委員会、県文化協会、下野新聞社、 講演会講師、物故者遺族、業者 功労者表彰、感謝状贈呈 創立60周年記念会員展「創立60周年記念連盟賞」表彰 〔祝賀会〕 鏡開き、祝宴 創立60周年記念講演会 会場 栃木県総合文化センターサブホール 15時～16時半 講師 石川忠久先生(前二松学舎大学学長・漢字文化振興会専務理事) 演題 「漢詩の味わい(書に関する詩を中心に)」 入場者 304名 講演会終了後サイン会(著書の準備…松島堂が手配) 色紙揮毫(祝賀会場にて抽選会) 懇親会は60周年記念祝賀会と兼ねる 第1回常任理事会・第1回理事會 内容 ○創立60周年記念事業についての報告	

1	12	11	10	8	8
11 4	16	4	27 6	16	30 4
○同会計関係報告 ○平成19年度の事業計画について ○役員改選について (第32回下野の書展) 会場 福田屋ショッピングプラザ宇都宮3F 代表作家 28点、選抜作家 225点 選考委員 重原聖鳥・赤澤豊・柿沼翠流・川合我山・石川普克 下野書展賞 赤澤寧生・安藤磨紀・竹澤久子 会報(第26号) 発行 A4版 20頁 130部 地区だより、研究発表、地区別催し物案内など 第2回常任理事会・第2回理事會 内容 ○平成19年度の事業計画について ○役員改選について (第61回県芸術祭美術展) 会場 栃木県総合文化センターギャラリー 公募 430点 入選 276点(含賞) 入選率 64・2% 審査員 赤澤豊・磯翠茗・五江洲霊水・櫻井敬朝・重原聖鳥 鈴木源泉・山中香葉 運営委員 重原聖鳥、専門委員 柿沼翠流・松本宜響 実行委員 大浦舟人・齋藤裕一・酒井導子・中原睦美・日賀野琢 芸術祭賞 腰塚藤翠 準芸術祭賞 鶴見芳花・関野人 奨励賞 石川子澄・大塚清岳・加茂泰玄・栗坪夕岐子・小森聖子 志賀優子・吉田竹溪・穂山玉星・安藤麻紀・渡辺春峰 県展入賞入選者のつどい 会場 ホテルニューイタヤ 16時～ 参加者 216名 会費 6千円 (招待者…県文化協会、副会長、事務局長、下野新聞社事業局長、業者) 〔県芸術祭会期 10月27日(土)～11月6日(火)〕 創立60周年記念研修旅行 方面 台湾・故宮博物院・中央研究院・中正紀念堂など見学 旅行代金 10万円(含添乗員同行・成田空港迄往復バス・空港税等) 参加者 85人 反省会(帰国後) 12月9日(日) ホテルニューイタヤ 参加者 46名 会費 5千円 特別参加 JTB新田様 計47名 第3回常任理事会・第3回理事會 内容 ○平成19年度の事業計画について ○役員改選について ○20年度講演会について ○第47回会員展について 第4回常任理事会 第4回理事會					

4	3	2
25 27 24	9 4 19	17 9 25
6 4	16	
内容 ○平成19年度の事業計画について ○役員改選について ○浙江省との書道交流計画について 第1回栃木県・浙江省書道交流実行委員会 日賀野琢先生県文化奨励賞受賞 社中主催「日賀野琢先生を祝う会」 (オーベルジュ・マロニエ) 連盟より生花を贈り祝意。 第5回常任理事会・第5回理事会 内容 ○役員改選について ○浙江省との書道交流計画について 第1回栃木県・浙江省書道交流実行委員会報告 高校生顕彰「栃木県書道連盟表彰」7校12名 表彰状・額の発送 第2回栃木県・浙江省書道交流実行委員会 第6回常任理事会・第6回理事会 内容 ○役員改選について ○浙江省との書道交流計画について 第2回栃木県・浙江省書道交流実行委員会報告 ○平成19年度の事業報告について ○平成20年度の事業計画について 実技講習会 講師 石飛博光先生(日展会員・創玄書道会副理事長) テーマ『現代書道・創作のコツ』 会場 ホテルニューイタヤ 参加者 347名 懇親会 同会場 午後3時半～ 会費 5千円 参加者 78名 監査 ホテル丸治 浙江省書法家協会との打ち合わせおよび視察 面談者 浙江省書法家協会秘書長 楊西湖 同副秘書長 王義驊 同会員 陳峰 浙江美術館業務部主任 尹舒拉 浙江民建書画院院長 蔣頌 同会員 賞竹 杭州乾嘉文化芸術(有)社長 黃杼薇 昱林堂社長 浙江省中国旅行社日本部 部長 張晶晶 同 顧雅芳 ※仲介 松本宜響(副会長)・大浦舟人(事務局長) 視察者 第3回栃木県・浙江省書道交流実行委員会 第7回常任理事会・第7回理事会 内容 ○浙江省との書道交流計画について 第3回栃木県・浙江省書道交流実行委員会報告 ○平成19年度の事業・決算報告について(監査報告) ○平成20年度の事業計画・予算案について ○役員改選について		

平成20年度 事業計画 (主なもの)

第47回会員展

会期：平成20年4月25日(金)～28日(月)

会場：栃木県総合文化センター第1・3・4G

『栃木県書道連盟賞』受賞者 小林桂華・小林香風・坂本典子

平成20年度通常総会

期日：4月27日(日) 会場：栃木県総合文化センターサブホール

総会時の会員数 897名 総会出席者 181名 委任状提出者 474名 計 655名

平成20年度講演会

期日：4月27日(日) 会場：栃木県総合文化センターサブホール 入場者 268名

講師：綾部光洲先生(早稲田大学文学部講師・文学博士)

演題：『空海の書の驚くべき背景』——空海研究の最前線から——

平成20年度実技講習会(作品制作研究会)

画仙紙半切の作品(浙江省との交流展のもの又は任意作品)を持参

班に分かれ、役員から講評を受ける 参加予定 147名

期日：8月24日(日) 13時～16時 会場 ホテルニューイタヤ

中国四川省大地震見舞金寄付 7月7日(月) 日本赤十字社栃木県支部へ60万円寄付。

平成20年度栃木県文化振興功労団体表彰受賞祝賀会

期日：8月24日(日) 16時半～ 会場 ホテルニューイタヤ 出席予定140名

来賓：栃木県知事 福田富一様、県文化協会副会長 荒井宗明様、同安久都

和夫様、同小菅充様、同事務局長 渡辺利夫様、下野新聞社副社長

関根宏信様、同事業局長 石崎公宣様、同長谷川浩様、業者5社

会報(第27号)発行

9月1日(月)

県展入賞入選者のついで

11月2日(日) (同日批評会…県文化協会主催) 会場：ニューイタヤ

第24回女流展

会期：平成21年1月9日(金)～12日(月) 栃木県総合文化センター 第4ギャラリーABC

平成20年度研修旅行

期日：平成21年3月25日(水)～28日(土) 泊4日

方面：中国浙江省杭州市西湖周辺・紹興市蘭亭など

栃木県・浙江省書法友好交流展

会期：平成21年3月26日(木)～30日(月)

会場：中国浙江省杭州市西湖美術館

※出品(中国展) 作品は第48回会員展(日本展)へ出品する。

平成19年度 収支決算書

[収入の部]

(単位:円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	摘 要
1.前年度繰越金	517,095	517,095	0	
2.会費	4,500,000	4,420,000	△ 80,000	5000円×884口
3.60周年記念事業協賛金	925,000	913,000	△ 12,000	1000円×913名
4.記念展出品料	986,000	986,000	0	2000円×493名
5.基金より	1,835,000	1,835,000	0	
6.雑収入	61,905	233,553	171,648	タグシール、図録売上等
合 計	8,825,000	8,904,648	79,648	

[支出の部]

項 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	摘 要
1.総会費	110,000	114,881	4,881	会場費・看板代等
2.記念式典	510,000	509,952	△ 48	表彰、祝賀会
3.記念誌	2,000,000	1,979,250	△ 20,750	図録(1300部)
4.会員名簿	500,000	498,225	△ 1,775	会員名簿(1300部)
5.展覧会費	1,265,000	1,254,002	△ 10,998	
会員展	980,000	1,003,548	23,548	記念会員展
女流展	135,000	121,500	△ 13,500	20年度会場費
関連書展	150,000	128,954	△ 21,046	県展・下野書展等
6.会議費	1,150,000	950,089	△ 199,911	
顧問・参与会	50,000	0	△ 50,000	1回
正副会長会	50,000	29,370	△ 20,630	
常任理事会	250,000	141,506	△ 108,494	
理事会	400,000	489,151	89,151	7回
専門部会など	400,000	290,062	△ 109,938	総務・研修・書展・60周年・浙江省交流実行委
7.研修費	960,000	912,713	△ 47,287	
講演会	330,000	349,683	19,683	記念講演会、謝金他
実技講習会	480,000	445,030	△ 34,970	講師謝金・会場費他
研修旅行	150,000	118,000	△ 32,000	台北、故宫博物院
8.地区活動費	90,000	113,578	23,578	15地区
9.通信・印刷費	1,240,000	1,141,165	△ 98,835	
通信費	650,000	536,790	△ 113,210	各種行事案内、記念誌送料
印刷費	590,000	604,375	14,375	会報・各種行事案内印刷等
10.渉外・運営費	500,000	579,860	79,860	高校生顕彰・慶弔費・関係団体負担金
11.事務局費	450,000	283,180	△ 166,820	
消耗品費	200,000	62,601	△ 137,399	
事務運営費	250,000	220,579	△ 29,421	事務関係諸費
12.予備費	50,000	0	△ 50,000	
合 計	8,825,000	8,336,895	△ 488,105	

収入決算額 8,904,648

支出決算額 8,336,895

差引額 567,753

次年度繰越金 567,753円

◎ 連盟基金残高 前年度残高 129,858
 利子 814
 130,672

上記の通り決算報告致します。

栃木県書道連盟会長
 同会計

鈴木 源泉
 山田 雅子

会 計 監 査 報 告

平成19年度 栃木県書道連盟 収入支出の決算について、3月24日に監査した結果、
 使途、決算書、証憑等適正であることを認めます。

平成20年4月1日

大石 律昭 男
 小森 梅子 女

平成20年度 収支予算書

[収入の部]

(単位: 円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1.前年度繰越金	567,753	517,095	50,658	
2.会費	4,300,000	4,500,000	△ 200,000	5000円×860名
3.60周年記念事業協賛金	0	925,000	△ 925,000	
4.記念展出品料	0	986,000	△ 986,000	
5.会員展	450,000	0	450,000	1000円×450名
6.女流展	300,000	0	300,000	1500円×200名
7.基金より	0	1,835,000	△ 1,835,000	
8.雑収入	32,247	61,905	△ 29,658	タックシール他
合 計	5,650,000	8,825,000	△ 3,175,000	

[支出の部]

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1.総会費	110,000	110,000	0	会場費・看板代等
2.記念式典	0	510,000	△ 510,000	
3.記念誌	0	2,000,000	△ 2,000,000	
4.会員名簿	0	500,000	△ 500,000	
5.展覧会費	1,080,000	1,265,000	△ 185,000	
会員展	500,000	980,000	△ 480,000	会場費、看板代他
女流展	450,000	135,000	315,000	会場費他
関連書展	130,000	150,000	△ 20,000	県展・下野書展等
6.会議費	850,000	1,150,000	△ 300,000	
顧問・参与会	50,000	50,000	0	
正副会長会	50,000	50,000	0	
常任理事会	100,000	250,000	△ 150,000	
理事会	250,000	400,000	△ 150,000	
専門部会など	400,000	400,000	0	総務・研修・書展・浙江省交流実行委
7.国際書道交流費	600,000	0	600,000	栃木県・浙江省書道交流事業
8.研修費	730,000	960,000	△ 230,000	
講演会	330,000	330,000	0	講師謝金他
実技講習会	200,000	480,000	△ 280,000	講師謝金・会場費他
研修旅行	200,000	150,000	50,000	浙江省
9.地区活動費	50,000	90,000	△ 40,000	
10.通信・印刷費	1,180,000	1,240,000	△ 60,000	
通信費	600,000	650,000	△ 50,000	各種行事案内他
印刷費	580,000	590,000	△ 10,000	会報・各種行事案内印刷等
11.渉外・運営費	600,000	500,000	100,000	高校生顕彰・慶弔費・関係団体負担費
12.事務局費	400,000	450,000	△ 50,000	
消耗品費	200,000	200,000	0	事務機器購入他
事務運営費	200,000	250,000	△ 50,000	事務関係諸費
13.予備費	50,000	50,000	0	
合 計	5,650,000	8,825,000	△ 3,175,000	

収入予算額 5,650,000

支出予算額 5,650,000

差引額 0

連盟基金 130,672

事務局より

事務局長
大浦舟人

祝 平成20年度栃木県文化

振興功労団体表彰受賞 !!

去る6月15日(日)、第23回県民の日記念式典が栃木県総合文化センターサブホールにて開催されました。この中で、栃木県書道連盟は、これまでの書道の普及発展を図り書道を通じて本県文化の振興に寄与する取り組みが高く評価され、本年度の栃木県文化振興功労団体表彰という栄誉を賜りました。文化振興功労としての表彰は他に一つだけの大変名誉なものであり、創立60周年を経た節目の記念すべき受賞です。本連

表彰状

下野市 栃木県書道連盟様
貴連盟は多年にわたり地域文化の向上及び書道の普及発展に努められました
その功績は誠に大でありました
のでここに表彰します

平成二十年六月十五日

栃木県知事 福田 富一

栃木県・浙江省友好締結15周年記念
「浙江省への研修の旅」ご案内

- ①方面 中国浙江省杭州市内(西湖美術館、浙江省博物館、西泠印社など)・紹興市(蘭亭)
- ②期間 平成21年3月25日(水)～28日(土)3泊4日
※日程は別表参照
- ③旅費 140,800円
※含まれるもの
栃木各地～成田空港往復送迎バス代、成田～杭州 JAL往復航空券、現地専用車代、行程表記載の食事(演奏・飲み物代含む)・観光入場料、現地チップ、オイルサーチャージ・空港税、添乗員3名(懇親会通訳2名)
※含まれないもの
海外傷害保険、1人部屋追加料金、価格変動分差額
- ④旅行業者 JTB関東宇都宮支店
- ⑤申込 平成20年7月26日(土)～8月31日(日)
(会報到着後、折り返しのお申し込みも受け付けます。)

◎会員の方、ご家族、ご知友どなたでも参加できます。栃木県・浙江省書法友好交流展に出品されない方もふるってお申し込み下さい。

新体制がスタート! 《役員の改選》

先の通常総会において、2年毎の役員改選が行われ、別表の通り承認されました。今回は大きな変更はありませんが、新理事に桜井敬朗氏(宇都宮市)・前田珠芳氏(栃木市)・竹澤久子氏(下都賀郡)新監事に下司香雪氏(宇都宮市)新参与に4名の方が就任されました。なお、監事の小森梅壽氏が退任されましたが、30年余にわたるご尽力に深く感謝致します。

栃木県・浙江省

書法友好交流展

会期…2009年3月26日(木)

30日(月) ※26日…開幕式

会場…浙江省杭州市「西湖美術館」
(栃木県の選抜作品200点、浙江省の役員作品60点を展示します)

※第48回会員展は交流展の「日本展」として実施する予定です。

会期…平成21年6月6日(土)～10日(水)
会場…栃木県総合文化センター

全ギャラリー

お願い

○年会費が未納のままになっている方はお早めにお願ひします。

○住所・連絡先など変更事項がある場合は事務局(大浦)までお知らせ下さい。

お悔やみ

塚本龍涛様 高坂一舟様

深澤一通様 佐山朝而様

清水松翠様

(以上、事務局へ連絡があった方々)

※謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

北京オリンピックに夏が沸き、豪雨の猛暑も喉元を過ぎ、気づけばもう、秋になってしまった。市井には梨が出回り、我ら書人の饗宴の季となる。遅ればせながら江戸博で念願の『蘭亭序』を見てきた。ああ、やつぱり凄く凄く。次いで会報が刷り上がり、県書壇に動向発信。玉稿をお寄せ下さった皆様と、総務部渾身の結晶です。ご高覧下さい。

(総務部)

